



Good News for Japan **とぎのこえ**

すべての人の救い

西村 保

救世軍が始まって、今年で百五十二年、日本での働きが始まって百二十二年を迎えています。救世軍は、古くから「救霊にあらざる社会事業なく、社会事業にあらざる救霊なし」と謳っているように、キリスト教伝道の働きと共に、社会福祉及び医療の働きを、鳥の両翼のように欠かせないものとして進めてきました。

「救世軍社会福祉事業及び医療事業は、キリスト教の精神と、救世軍の主義に従い、すべての人の全人的存在の価値を尊び、キリストが一人ひとり愛されたことを模範とし、キリストに仕えるように個人個人に仕えることをその事業の基盤とする。」

明文化はされなくても、救世軍には、創業の時代から人々のニーズを追い求め、そこに応える具体的な実践がありました。たとえば、日本における救世軍の創業

期の明治三十五(一九〇二)年には、「救世軍愛隣隊」が編成されています。この働きを通して、救世軍は、病院や事業所に来る人のお世話をするだけでなく、各家庭を訪問し、どのようなニーズがあるかを調べ、それに応えていました。

理念の明文化は、さらに良い働きをするため、特にサービスの提供者が、自らの働きに対する理解を深めることができる助けとなりました。

この理念には「キリストが一人ひとりを愛されたことを模範とし」とあります。イエス・キリストは、どのように人を愛されたのでしょうか。聖書の中には、目の不自由なバルティマイとイエス様のこと書かれています(マルコによる福音書10章46~52節)。

イエス様が、弟子たちとエリコという町を歩いていた時、バルティマイは道端で物乞いをしていました。彼は、イエス様を通られることを知り、叫んで、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と言いました。多くの人が、彼を叱りつけて黙らせようとしましたが、彼はます

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けたのでした。イエス様は立ち止まって、バルティマイを連れて来させ、こう尋ねられました。「何をしてほしいのか。」

「先生、目が見えるようになりたくたいのです」と答えると、イエス様は、「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」と言われました。バルティマイは、この言葉を聞くと、すぐ目が見えるようになり、喜んでイエス様についていったのでした。

この出会いと会話から、三つのことに注目したいと思います。

①イエス・キリストは神様ですから、すべてのことを知っておられますが、あえて「何をしてほしいのか」と問われました。イエス様はこのようにして、人の思いに寄り添ってくださいます。

く、その思いを実現されました。見えるようになったバルティマイにはどれほどの喜びがあったことでしょう。

③しかし、イエス・キリストは、そこにもとまらず一番大切なこと、生きるために必要なことを彼に示されました。「あなたの信仰があなたを救った」と。バルティマイにとって見えることはとても重要であったことでしょう。しかし、人が生きていくために、もっと重要なこと、イエス様はその神髄に触れたのでした。真の神様を信じ、生きること、これに勝る喜びはないということなのです。

「神は、すべての人が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。」(テモテへの手紙一・2章4節)

全知全能の真の神様は、あなたも、イエス様の愛に触れて、信じ、救われることを望んでおられるのです。

(救世軍士官(伝道者))





備えられていた 私の居場所!

柴林 (旧姓バンクス) ヴィヴィエン



生い立ち

「自分は仕事も家族も住む家もなくなり、ホームレスになるかもしれない。私は子ども頃からよくそんなことを考えていました。これは母の影響だと思っています。」

私の両親は英国人で、救世軍の士官 (キリスト教の伝道者) でした。私が生まれる前の、一九五七年に来日し、二十年過ぎました。救世軍の士官には、小隊 (教会にあたる) での伝道活動のほか、いろいろな奉仕活動があります。その中の一つが街頭給食で、路上で生活せざるを得ない方々にカレーやお弁当などを提供する働きです。母は、人から話しかけられることが多く、また日本語も話せたので、そこで出会った方々の話を

私は東京で生まれ、日本の救世軍の方々に愛されて育ちました。幼い時から社会鍋 (年末におこなう街頭募金) に立ち、年齢に応じて、日曜学校に通い、救世軍独特のタンバリンの叩き方を習い、子どもたちの金管バンドグループに属し、青年たちで編成されたコーラスグループに入り、活動していました。

高校一年の時に、両親と共に英国へ帰国。そこで、高校に通い、救世軍の様々な活動や奉仕に参加しました。唱歌隊 (聖歌隊) で歌い、日曜学校の教師の役割を果たし、金曜の夜にはパブに行つて『ときこのえ』を売っていました。また、アルバイトは、女性の DV 被害者を保護する救世軍のシェルターの清掃でした。この時期、将来、自分も両親のような救世軍の士官になろう、と決心しました。

学校を卒業すると、ロンドンにある日本の企業に勤めました。時を同じくして両親がスコットランドに異動となつたので、一人暮らしになりました。そこで私が属した小隊は、バンドのメンバーが七人、おばあちゃん信徒、それに小隊長 (牧師にあたる) の、たった九人の小さな規模のどこ

神様から離れて

ろでした。このメンバーで、毎週、街頭での伝道をするのが何よりも幸せでした。

けれども、その後、両親が南アフリカに異動になったのがきっかけで、救世軍に行くのをやめました。

二年後、英国で八年過ごした頃にロンドンで知り合った日本人の主人と結婚して、大阪に移り住みました。今から三十二年前のことです。主人も家族もクリスチャンではありませんが、私が救世軍に行くのをやめ、神様も信じないと決めていたので、何も困ることはありませんでした。外国人なのに日本語を話せるので、

「どうしてそんなに話せるの?」
「という質問は日常茶飯事 (さはんじ) なの?」
「両親が牧師で、東京生まれなので」
と答えると、決まって、「じゃあ、クリスチャンです」と。そのたび、むきになって「私は違います。クリスチャンではありません」と答えています。今思う



両親と (1961 年)

と、何がそんなにいやだったのか、よくわからないのですが……。
それでも、娘が生まれ、息子が生まれると、英国の両親に会いに行つたり、反対に両親が日本に来たりすることが増え、そのたびに英国や大阪の救世軍に行かなくてはなりませんでした。
そして、十五年前に父が急死、母も、その三カ月後に亡くなりました。
ちょうどその年、娘は高校受験で、私の思いとは別に、なぜかミッシェン系の女子高に行きたいと言いました。希望の高校に入学しましたが、そこは、月に一度、教会に行かなければならない規則がありました。家の近くに教会はいくつもあるのですが、娘は「おじいちゃんと一緒に行った天満小隊に行く」と言い張りました。両親が亡くなったので、救世軍に行かなくてよい生活を想像していたのですが、月に一度、天満小隊に行かなくてはならなくなりました。

転機

父が亡くなって一年目、東京にある救世軍の本部付金管バンド「ジャパン・スタッフ・バンド」が神戸でコンサートをおこなうことを知り、子どもたちと聴きに行きました。

父も、日本にいた頃このバンドに属して、二十年間ラップを吹いていたのです。

コンサートの間中、かなり泣いていた記憶があります。バンドの音色と、演奏される曲が語りかける御言葉に、神様がひと時も私を離れず共にいてくださったことに気づかされたのです。その時、歌われた歌——神様は御手を広げて悔いる人を迎え、恐れを取り除かれる。主はそばにいらっしゃる、という内容——は、私

自分の人生を振り返り、神様の支えがなければ、決してやってくる事ができなかったこと、神様はいつも私を見守り、愛してくださっていたことに気づかされました。そして、親はいなくなっても、ずっと私のために祈っていてくださった人がたくさんいたことにも、気づかされました。

備えられていた居場所

その後、大阪の西成小隊で



息子(写真左)も手伝って、おにぎりづくり

毎月、街頭給食をしていること、その資金をつくるため毎水曜日の午前中にガレージールをしていることを知りました。すぐ、ケーキを十個ほど焼いて、小隊に行きました。西成小隊は、釜ヶ崎(通称)と言われる日雇い労働者の街で路上生活者もたくさん住んでいる場所の近くにありま

す。翌月、その街頭給食のお手伝いに行き、おにぎりをにぎって配りました。他の小隊でもこのような給食をしています。西成小隊の場合は、一緒に奉仕している人の大半が過去におにぎりを受け取ったことのある人たちなのです。

その晩は全く眠れず、朝起きてすぐ、小隊に電話をして、感じたことや自分のしたい奉仕が西成にあることを話しました。神様は、長年、神様から離れていた私に居場所をちゃんと与えてくださったのです。それからは、子どもたちも、できる時には手伝いに来てくれるようになりました。かつて、母が教えてくれた奉仕の喜びを、今度は私が子どもたちに伝えることができ、感謝しました。



娘と秋のバザーで奉仕



朝の礼拝



食事風景



午後の野戦

西成小隊の日曜日

西成小隊は、古い木造の建物で、台所も狭いのですが、毎日曜日、三升炊きのお釜でご飯を炊き、二部制にして食事を提供しています。

日曜日は、朝、六時に会館のドアを開け、無料でコーヒーを飲めるようにすることから始まります。集まって来るのは、路上生活の人、ワーキングプア、生活保護で暮らしている人たちなどです。七時半から、礼拝で歌う歌の練習をし、八時から第一礼拝です。

それが終わると、一度すべての椅子を片付け、テーブルを出して食事となります。月に一度は、食後に衣服の配布もあります。

その後、全員が入替わり、テーブルを片付けて椅子を並べ、第二礼拝のための歌の練習と祈り会、続いて集会になります。それが終わってから、

昼食—二度目の食事—となります。私ができるのは食器洗い程度ですが、毎日曜日、早朝から小隊長の夫人と数人の信徒が食事の準備をします。配食や片付け、椅子とテーブルの入れ替えなどの力仕事のほかに、受付、礼拝の司会、信仰の体験談の役割なども、皆で受け持ちます。午後は、野戦と呼ぶ短い街頭での集会、勉強会などで、忙しい一日が終わります。

神様のご計画

西成小隊の活動は、広く多くの人に支えられています。古着、米、石鹸、卵など毎週の食事のための献品や、献金また、クリスマスにはプレゼントとして下着なども送られてきます。バザーで使う紙袋を集めて持って来てくださる方もいます。月に一度の街頭給食には、他の小隊の信徒の

方が朝から来て手伝い、配食には救世軍児童養護施設の高校生たちが奉仕に加わります。この中で、私にできる奉仕は本当に小さなものです。でも、神様が私をこの小隊に導き、私を用いようとしてくださっていることを信じます。この西成小隊に來なければ、私はどれほど愛されていたかを知らずに人生を終えていたかもしれません。

幼い時、母から聞いて、いつも頭の中にあつた路上生活の人たちと、今、ここで一緒に礼拝し、奉仕していることは、神様のご計画としか思えません。私は、ここに集う人たちの歌声が大好きです。特に、「人生の海のあらしに」という歌——嵐のようなつらい経験の中から、神様の愛によつて救い出され、今、安らかな人生へと導かれている、という内容——は、それぞれの体験を表しているようで、心に響きます。その人たちが、八月の誕生会で私のためにパースデーソングを歌ってくれた時には、うれしくて泣きそうになりました。

これから

今年の春から、天満小隊でおこなっている金管バンドのグループに参加し、ラップを吹いています。三十五年ぶりのバンドです。これも、神様が用意してくださった私の居場所かな、と思っています。私のように、些細なことでも神様から離れた人がたくさんいることと思います。そのように人に、伝えたいです、「大丈夫だから、もう一度教会に行ってみてください。神様は、あなたの場所を用意して待っております」と。

最後に、今、一番好きな聖書の言葉を記します。「恐れはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。」

聖書

(イザヤ書41章10節 口語訳)

- 私の近くの救世軍を紹介してください。
- キリスト教についてもっと知りたいです。
- 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

ご氏名

ご住所

裏 この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブリス 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 ケネス・メイナ (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈メキシコ〉地震の被災地における支援活動



子どもたちも支援品を準備

9月7日夜、メキシコ南部沖でのマグニチュード8.1の地震に続き、19日、首都メキシコ・シティ周辺でマグニチュード7.1の地震が発生しました。7日以降、救世軍の国際的なネットワークによる援助を受けつつ支援活動をしてい

た中で地震でした。この地震の直後には、被害を受けなかったメキシコ・シティの児童養護施設が、救援活動の拠点の一つとなりました。安全が確認されると、子どもたちは協力して軽食の準備に携わり、支援品を効率よく配布する大きな手助けとなりました。他に、救世軍の小隊(教会にあたる)も、救援品の受け付けと配布をしなが



ら、被害者の心に寄り添う支援を続けています。

〈中国〉救世軍の中国本土での活動が正式に承認される

救世軍は、1985年より、中国雲南省政府の招きによって、災害救援と復興支援をおこなっていましたが、このたび、中国政府の地方事務所が救世軍の登録を受理し、法的な承認を受けることができました。昆明(雲南省)と成都(四川省)にある救世軍の事務所は、災害救助・復旧、地域開発、社会奉仕、教育プログラムなどの活動に加え、各地域のキリスト教評議会と連携した宗教活動も許可されました。



これまで中国との対話を続けてきた

中国本土での救世軍の活動は、1916年に開始され、1949年の撤退まで、北部と東部の各州において急速に拡大していました。本土撤退後も香港での働きは維持されていましたが、今回の承認によって、より幅広い地域における救世軍の組織的な働き、他の団体との協働と連携への扉が開かれました。プログラムには、保健教育、HIV/エイズ教育、教育スポンサーシップ、貧困緩和のための所得創出プロジェクト、インフラと資本プロジェクト、相談事業、職業訓練などが含まれています。

救世軍とは

The Salvation Army

国際的なキリスト教会(プロテスタント)です。一八六五年イギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブリスによって創立されました。創立当時より、貧困にあえぐ人々、搾取されている女性たち、仕事につけない人々、お酒のために身を持ち崩した人々、十分な世話や教育を受けられない子どもたちなど、社会の光が当たらないところにいる人々の必要に応えながら、神の愛を伝えてきました。その結果、様々な社会福祉施設、病院がつくられ、学校が建てられて、今日に至っています。現在、救世軍の働きは世界百二十八の国と地域に広がり、国際的な協力体制の下、災害被災者支援、開発途上国における自立支援、人身取引阻止などの働きも積極的におこなっています。日本においては、一八九五(明治28)年に救世軍の働きが始まりました。廃娯運動の推進、女性や子どもの保護、職業斡旋、街頭給食、結核病院の設立、アルコール依存症者の回復支援など、その時々々の社会の必要に応える働きをおこなう、すべての人に与えられる神の愛を伝えてきました。現在は、四十三の小隊(教会にあたる)と十二の分隊(伝道所にあたる)、二つの病院、十九の社会福祉施設(下記参照)を通して働きを進めています。

救世軍の社会福祉施設

保育所

- 札幌市しせいかん保育園 (011-204-9560)
- 桑園保育所 北海道・札幌市 (011-221-6630)
- 菊水上町保育園 北海道・札幌市 (011-821-2879)
- 佐野保育園 栃木・佐野市 (0283-22-4081)
- (併設：学童保育「佐野子どもクラブ」)
- 呉保育所 広島・呉市 (0823-21-4711)

児童養護施設

- 機恵子寮 東京
- 世光寮 東京
- 希望館 大阪
- 愛光園 広島
- (併設：児童家庭支援センター「明日葉」)
- 豊浜学寮 広島

婦人保護施設

- 婦人寮 東京
- 新生寮 東京
- 大阪アベノ地下街救世軍カウンセリング・ルーム (06-6773-2956)

特別養護老人ホーム

- 恵泉ホーム 東京・清瀬市 (042-493-5161)
- 恵みの家(ユニットケア型) 東京・杉並区 (03-3381-7243)



ケアハウス

- いずみ(恵泉ホーム併設) (042-496-7575)
- (併設：ホームヘルパーステーションいずみ)

老人保健施設

- ブース記念老人保健施設グレイス 東京・杉並区 (03-3380-1248)
- (併設：ブース記念ケアマネジメントセンター和田)
- ブース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ)

アルコール依存症者支援施設

- 自省館(救護施設) 東京・清瀬市 (042-493-5374)
- 男子社会奉仕センター 東京・杉並区 (03-5860-2992)

男子宿泊施設

- 新光館 東京・新宿区 (03-5860-2818)

救世軍バザー場 東京・杉並区 (03-5860-2992)

- オープン 毎週土曜日 9~13時半
- 中野富士見町(東京メトロ丸の内線)より徒歩10分

江東出張所 東京・墨田区 (03-6261-5704)

- オープン 毎週土曜日 10~15時
- 錦糸町(東京メトロ半蔵門線/JR)より徒歩10分

寄贈品受付、お問い合わせは 03-5860-2992 まで

11月30日は社会鍋の日

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価
発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部四〇円(六六円) 十五日号一部六〇円(六六円) クリスマス特集号十二月一日号 一部一〇〇円(七七〇円) 一年分二二六〇円(送料七五〇円) 振替・〇〇一八〇一五四四〇〇

発行所 救世軍本営
印刷所 救世軍本営
電話 東京(03)三三七〇八八一
〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町一丁目一七

編集人 寺澤 真由子
印刷人 代表者ケネス・メイナ

「ときのかえ」クリスマス特集号 (12月1日発行)

Christmas Truth

クリスマス・メッセージ 信仰の体験談

★ 泉谷千賀子さん (フェルト作家) (ほか)

★ クリスマスの喜びの本当の意味をお届けします

ぜひお求めください! (1部100円)

映画『地の塩 山室軍平』 10月21日(土)~上映開始!

新宿武蔵野館(東京) シネマ・クレール丸の内(岡山)

順次、みなみ会館(京都) 第七藝術劇場(大阪) でも公開

世の苦しむ人々を救いたいとの情熱を捧げて生きた山室軍平と同志たちの物語

(この欄に通信文を書くとき第三種扱いになりません)